



# FUTA×FUTA

褐色爆根と小柄ツインテが  
ヤリチンふたなり姉妹  
をやっちゃう話

基本CG枚数12枚差分168枚



# FUTA×FUTA

褐色爆根と小柄ツインテが  
ヤリチンふたなり姉妹  
をやっちゃう話

基本CG枚数12枚差分168枚

私はサクラ。妹のアオイといつものように  
海でナンパした子をホテルに連れ込んで  
エッチしてたんだけと...





最初のうちは良かったけど  
次第に「ぐっ」ってスラムダンナ切れ  
しちゃうて  
「全裸おっぱいの癖」って



この子達の性欲、底がないの？



「あれ？ もう、ちんぽ萎えたんですか？」

「今度は私たちの番ですね♡」

「は?!  
なんでボクたちがお前らの  
言うこと聞かなきゃなんないんだよ?!」

「ハメるのはハメられる覚悟があるやつだけ  
って言葉しらないんですかあ？」

「先輩もなんか言っちゃっててくださいよ」

「……」





「私がナツメちゃんの相手をするわ…」

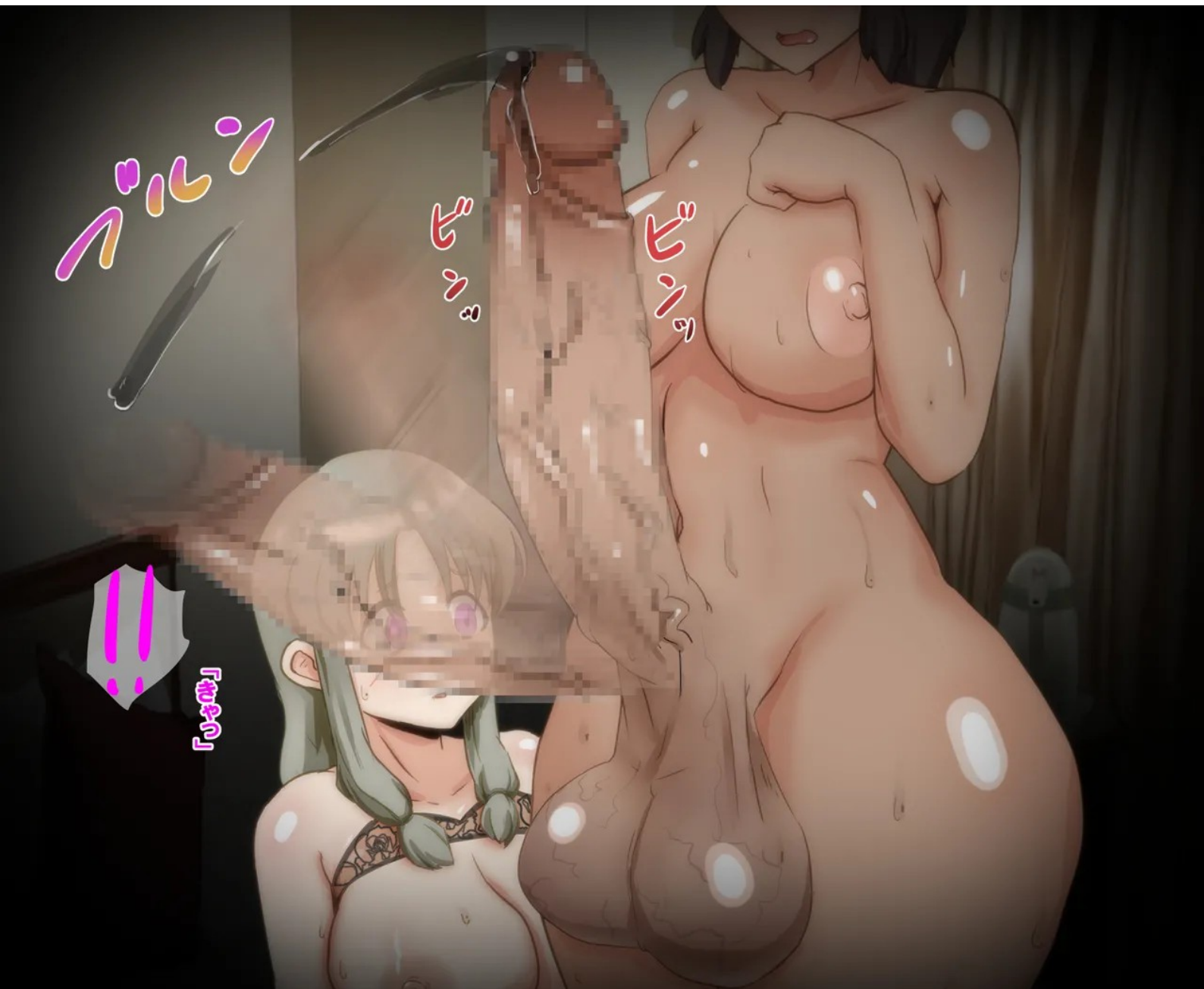
「ちょ、おねえちゃん?!」

アオイちゃんではあの爆根の相手はムリ…  
「」は私のテクニクで早々にイかせて  
あの子達を分らせてやる…!!

「自分から先輩の爆根選ぶなんて  
とんでもないヘンタイですね♡」



うう…近くで見ると余計にデカイ…  
それに熱気が伝わってくる…っ





嘘でしょ...  
この大きさがさうに「戻り返るなんて...」

ゴクゴク

ゴクゴク

ゴクゴク

「あ...  
は、は、は...」

？

ヤミ

「あはれな〜」



キーン

キーン

はなは

はな

んん

たはろ♡

んん

たはろ♡

…あはれな〜♡…あはれな〜♡

「さあ、アオイさんさちほさちで  
楽しみましょう♡」



「やうやうだね…  
まずは睡えてください」

「……」

「誰が舐めるか！」

い……

「……もしかしてフェラしたとないんですか？」

「うるさい！他人のチンポなんて舐められるか！」



「ホントはチンポ舐めたくて舐めたくてしようがないんでしょう？」

ぐいぐい

「素直になればいいじゃないですか」

「いっ加減で…」

「ちんぽ顔に擦り付けられておっ勃てるウゼ…」







ドキドキ♡♡

「ち、違…ボクは…  
チンポなんて…」

ドキドキ♡♡

ズ♡

ズ♡



「でもいんを」をこけてまわらな〜」

「♡...St...♡」

つん



頭おかしくなっちゃって♡♡♡♡

むっ♡

「♡♡♡」

キゅん

あああ…  
ダメ…っ  
そんな風に踏まれたら…

「あれ？アオイさんMなんですか？」

「そんなコト...な...ら...」



「しゃぶってくれたらもちっと気持ちよくなってあげますよ」

♡♡♡

ああ♡  
これを舐めれば...♡♡

「オラ、早くしゃぶれよー!」

て  
せ  
つ  
れ  
ろ

ああ…  
この味…ヤバ…興奮する……

チンポゴブリゴブリきもちいらい…♡





「ああ♡  
イイですよ♡もっとう興奮で行きましょっか」



「偉いですよ  
奥まで啜えれて」





なんでチンポしゃぶるのがこんなに  
気持ちいいんだろ…♡  
このままじゃ馬鹿になっちゃうよ…

っ  
—  
ちゅぽ

ちゅぽ

っ  
—



びん

びん

びん

「あゝ  
そろそろ射精ます  
ちゃんと飲んでくださいね  
窒息しちゃいますから…」

言い忘れてましたけど私、射精量だけは自信あるんですよ

嘘…

この子ごんだけ出すんだよ…

びゅん

ぐんぐん

ヤバ…追いつかない…





「大丈夫ですか?...ん?」

ホ  
ゴ

ゴ  
ゴ

カ  
カ

カ  
カ

カ  
カ

カ  
カ

「喉まんご犯されていつちやったんですか？  
爆根選んだ姉といい、とんだヘンタイ姉妹ですね♡」



「力抜いてくださいね♡」

「ぐいっ」

はあ

はあ

「えらく従順じゃないですか  
そんなに私のちんぽ気に入ってくれたんですか」

「嘘……うーそんな小はらさん……」





ズキユ

「あー」

あゝ

あゝ

「何か言いましたか？」

なんでえ…♡  
なんれこんらい  
きほちいいのお♡♡

一人でやるときと全然違うよ♡♡





「私のパイプリどっかしらっ」

「サクラさんそんなお遊びじゃなく早くアナルほじらせてくださいよ」

「…えっ？」

「悪くはないんですけど先っちょだけじゃその…物足りないというっか…」

「このままじゃアナル壊されちゃう…早く射精させて萎えさせないと…」

「こんな太くて…硬くて…」

「熱いのが入れたら」

「何考えてるの私！」

「こんなの嵌めたらアナル壊れちゃうじゃない！」



「涎で滑らさるへ〜コト…」

アハハ♡

んー

アハハ

アハハ♡

アハハ

「はだかぬきでいいわね」

「...♡  
はだかぬき...」

はあ  
はあ

たのしみ♡

たのしみ♡

たのしみ♡

たのしみ♡

たのしみ♡

胸におっぱいとおちんちん、私の羊にサクラさんの  
タマとムチムチのフトモモが...





「あーん  
イヤッ」

「あーん」

「あーん」

「あーん早く挿れたいわ」

ズリッ

ズリッ



「あーあーあー」

「あーあーあー」

私、おちんぼで持ち上げられている?!

「あーあーあー」

は、

は、

は、

あーあー

あーあー



「サクラさん大丈夫ですか？」

「痛たた…」

…ん？



「アオイちゃん…?」

いつもならハメられるの拒否してるのに…

あんな気持ちよめると…

あゝ

あゝ

あゝ

アオイ



「サクラさん？  
聞こえてますか？」

私が守ってあげなきゃって…

おん

おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん

「アツクシムンクホカ〜」

「アツクシムンクホカ〜」

「アツクシムンクホカ〜」

「いやあずいぶん  
素直になつてくれて私  
嬉しいです」

おん△

お♡

おん

アツクシムンクホカ♡

アツクシムンクホカ





「さあ、スパートかけますよ」

「うん」

「うん」

「うん」

「うん」

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

人形

アッ





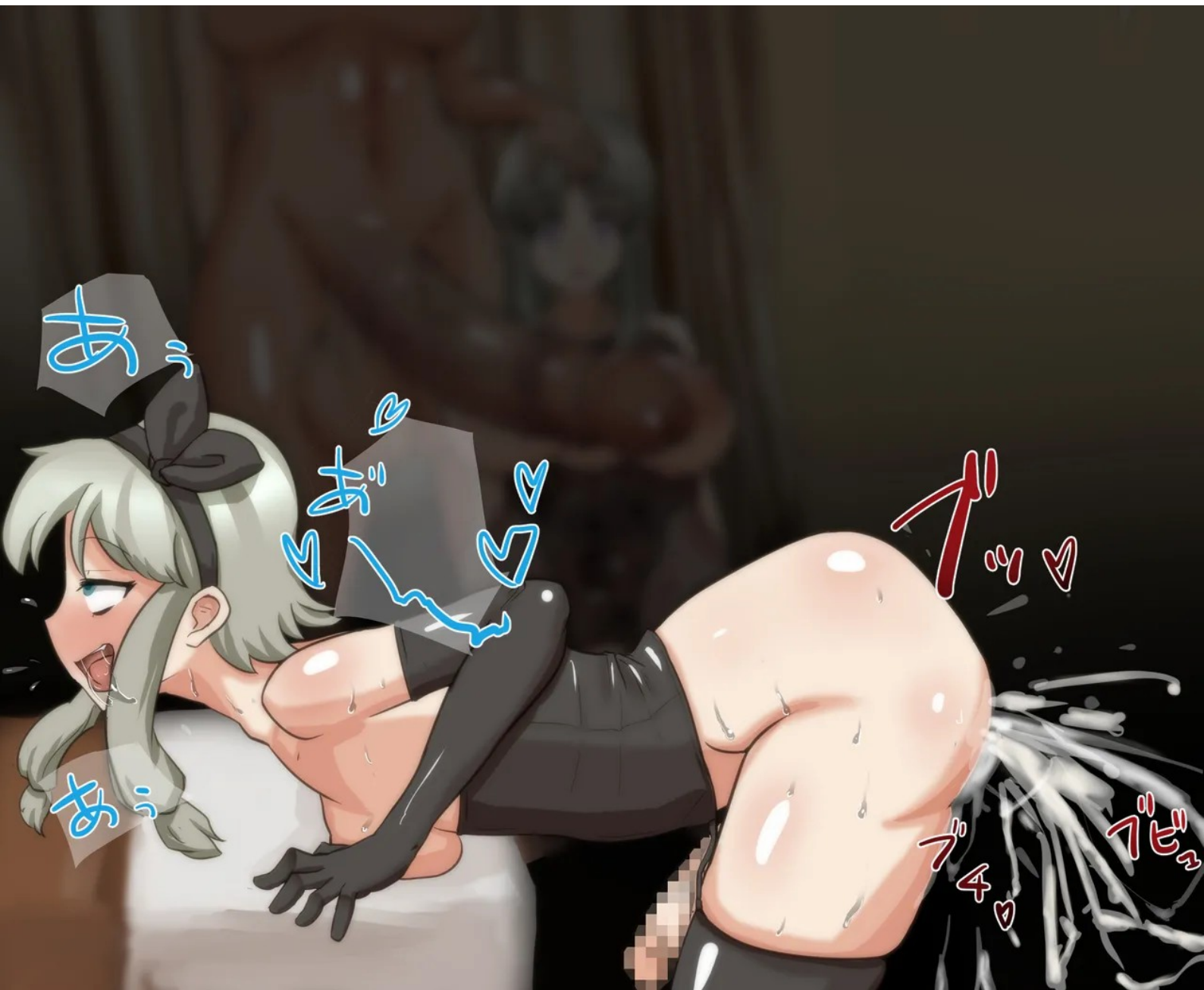
「すんぐキキチイイですよアオイさん♡  
もうちょっと出しますから  
逃げないでくださいな♡」

「びっ...びっ」

びっ  
びっ

グッ  
グッ  
グッ





私も気持ちよくなりたい…

「ぎ、サクラさん？聞こえてますか？」

キモチヨク…♡

もういいのかな…





「わ、私も気持ちよくしてください♡」

早くほしいのよ」

「極太の黒ちゃんぽあ♡♡♡」

はあ

はあ

アオイさんのイッてるのを見て急に積極的に...

「うすすも...♡」

「ん...」

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



「私のチンポ嵌めたらアナル壊れちゃうかもしれないよ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

ゾッ

ゾッ

ゾッ



「おっちゃん、早くしてさあ、おっちゃん」

はぁ

はぁ

ん、♡

じゅっ♡



「おっさんのアオイさんのザーメン...」



はあ

「こんなもんかな」

ミロロ

もいっ♡

はあ





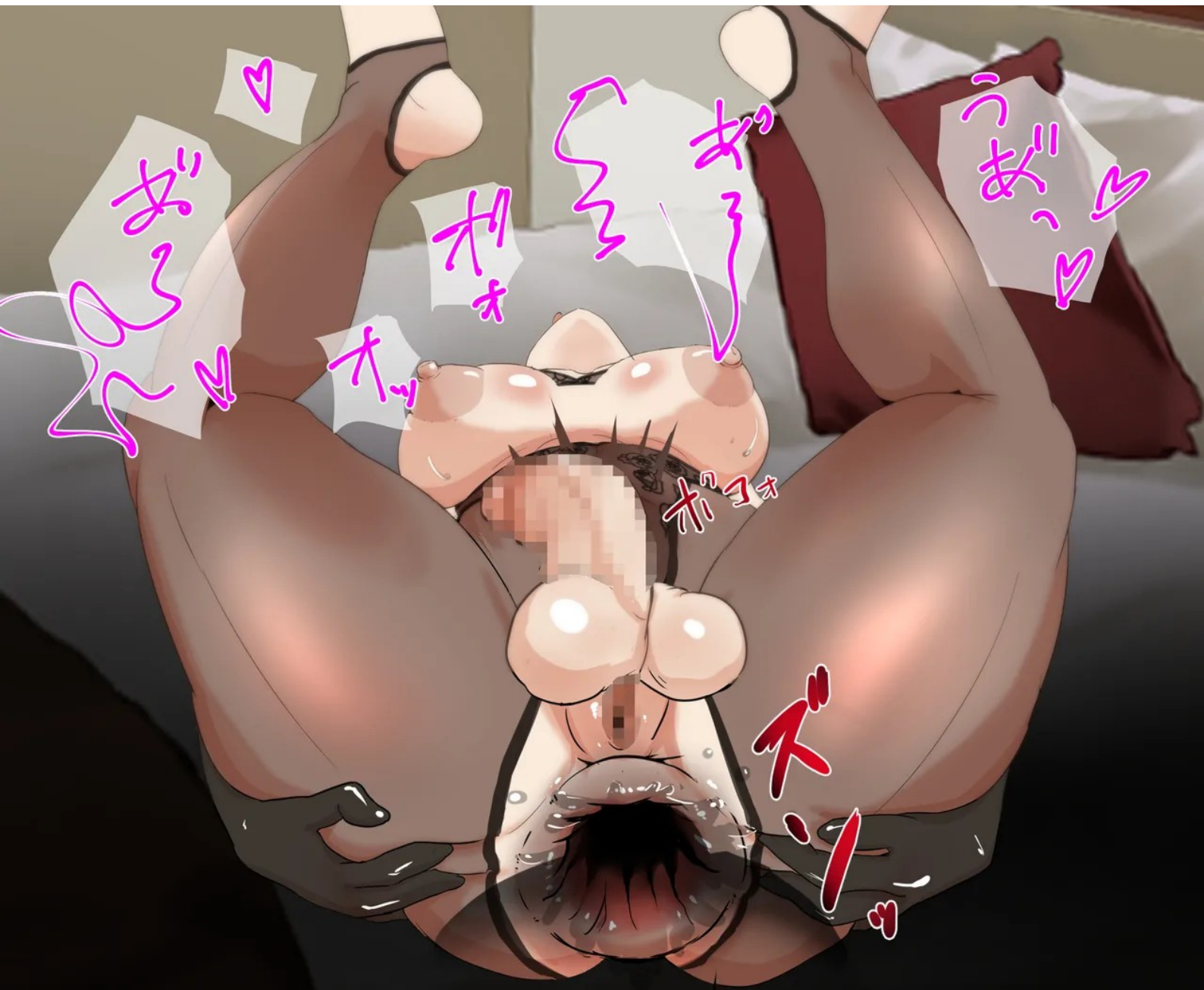


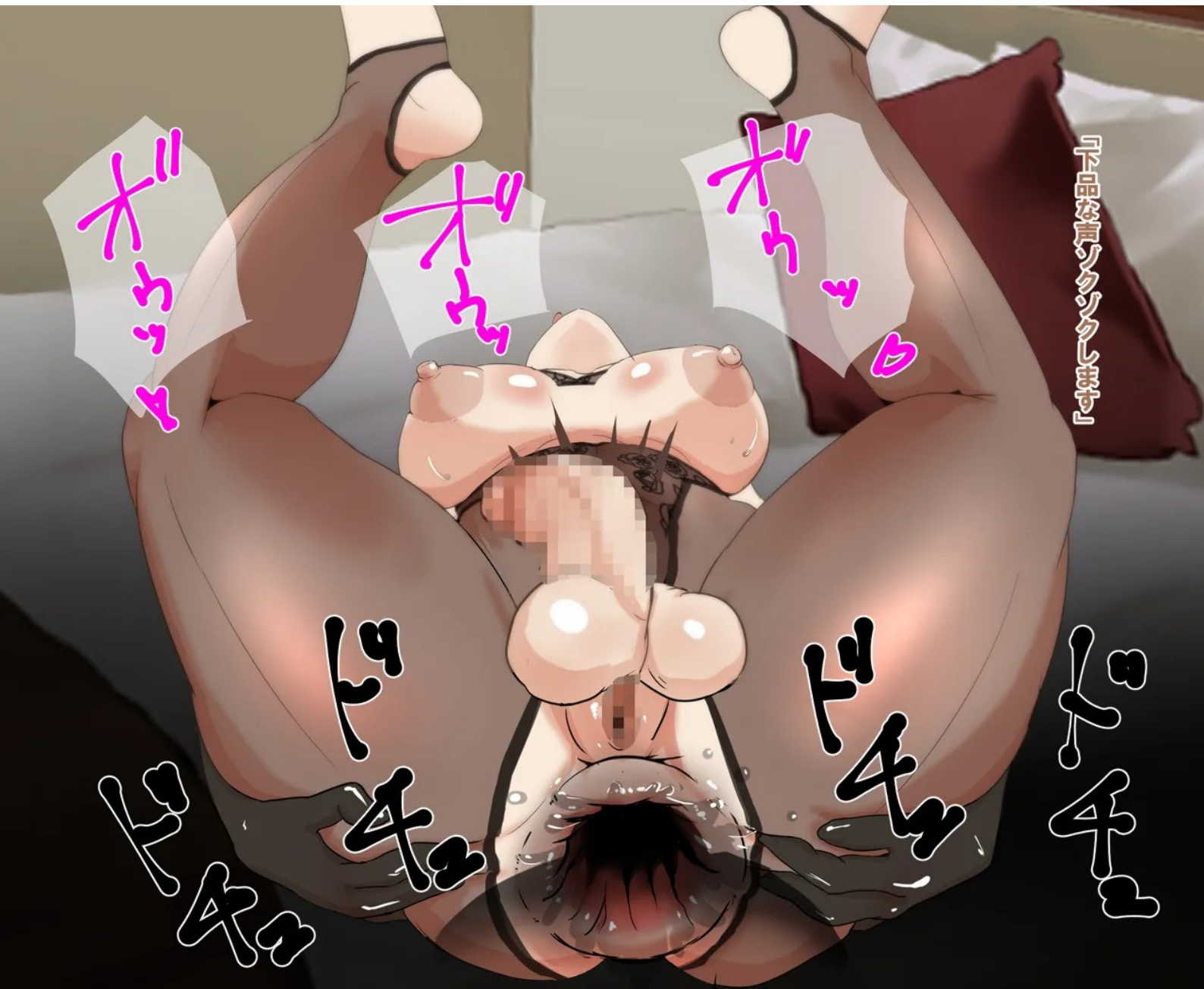
先っちょ入りましたよ♡♡

んんん♡♡

しゅっ

んんん





「下品な声ソクソクします」

アッ

ハッ

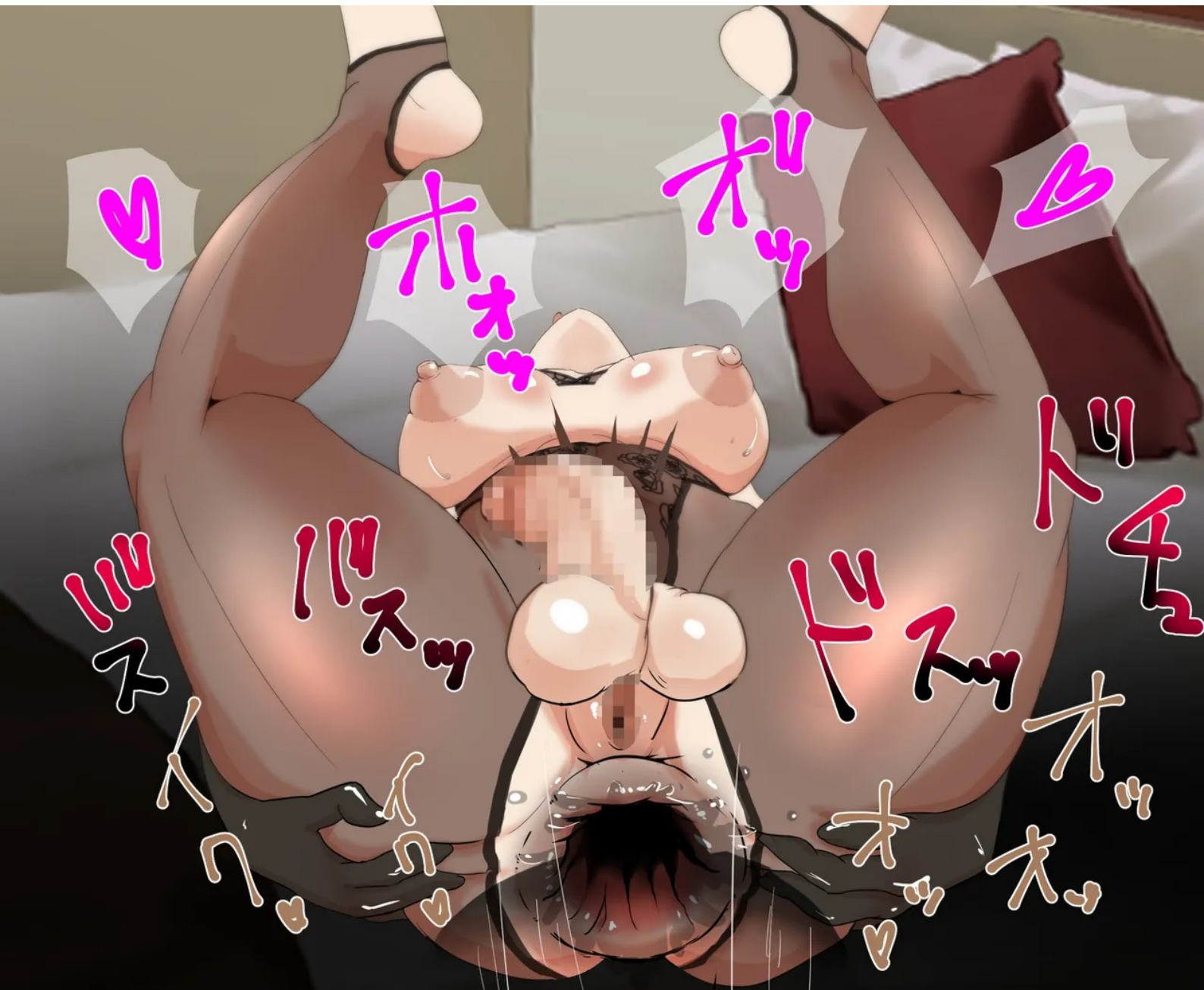
ハッ

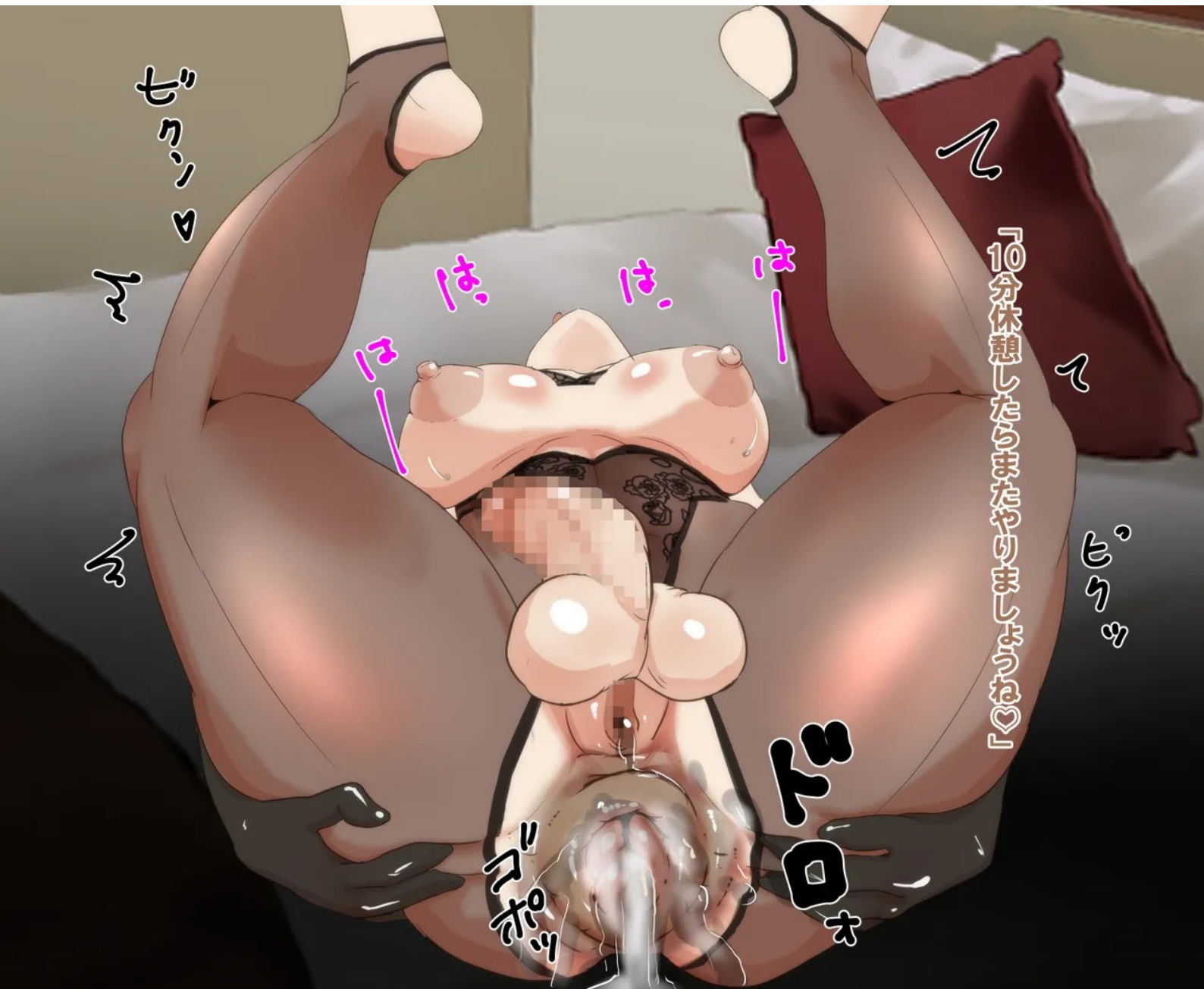
ドク

ドク

ドク

ドク





は

は

は

は.

は.

は

は

「10分休憩したらまたやりましょっね♡」

は

は

は

は

それから一晩中ボクたちはつながり続け、

おねえちゃんはあるの  
デカチンポで狂ってしまった…。

今まではチンポをはめられて  
悦ぶなんてないと思っていたけど一目…  
いや、一回で考えが変わってしまった

もっと欲しい…。





「んっ…」

「先輩そろそろ終わりにしますか？」

「そっだね」

「んっ…」

「んっ…んっ…」

「んっ…んっ…」



「また来ますね  
ザーメン溜めて待っててくださいね♪」

「あっ、  
ちん毛と腋毛剃っちゃだめですよ  
その方が下品なんで♡」



一週間後…

レモンちゃん今晚あの二人のとこ行かない？

あの二人…？

…ああ、海水浴場の！

いやー最近忙しくって忘れてましたよ

フッフ…おじいね

それじゃ連絡しときますね！



「一週間ぶりですね」

「ちゃんと約束は守ってますか？  
もっとよく見せてください」

「約束通りこの一週間サーブマン油あげたよ」

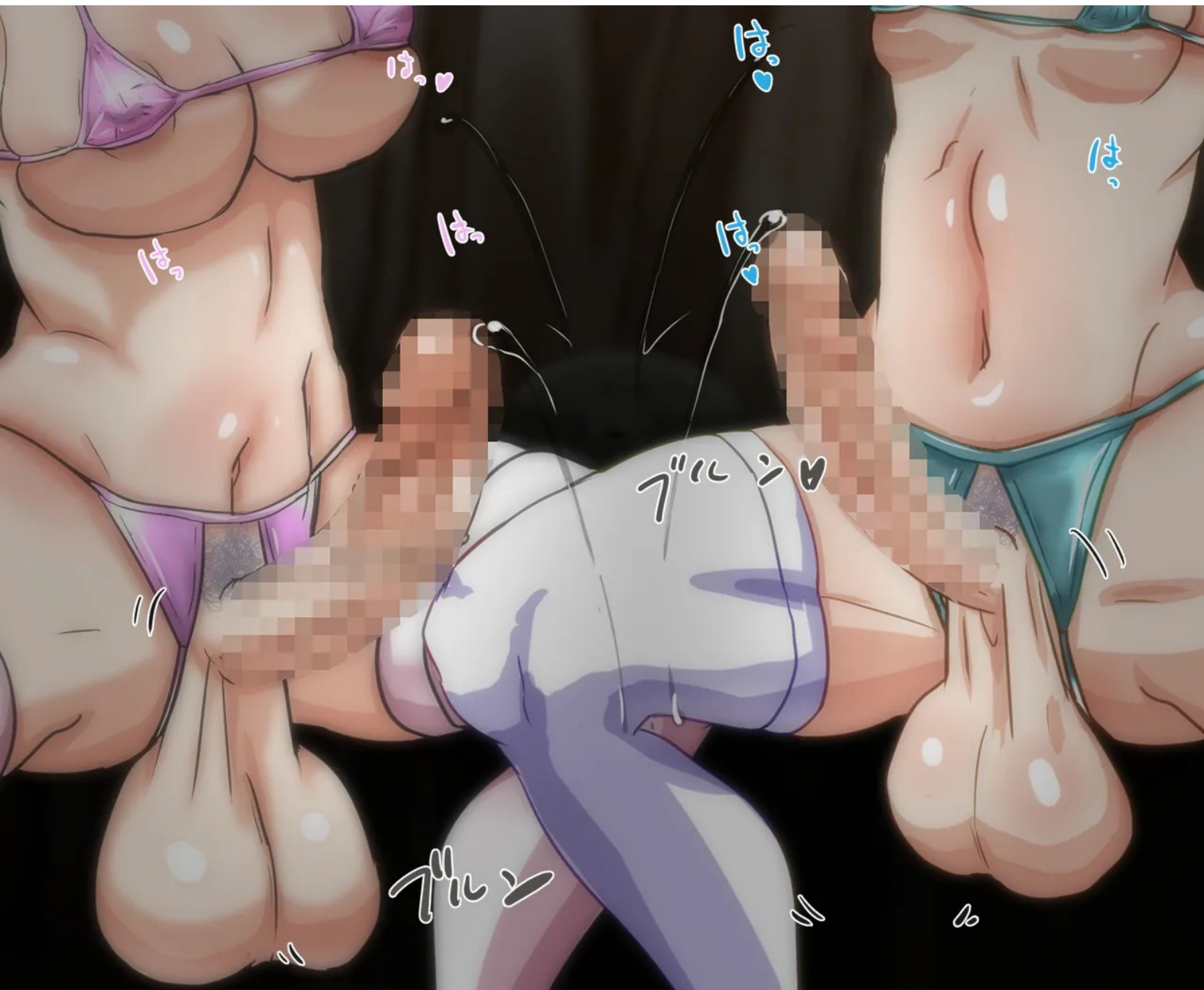


「なまじりしてらましたあ♡」

「あの日のように思い出したら勃起止まらなくてえ」









「2人ともしっかり可愛がってあげますからね♡」

「亀頭、ぞくぞくしちゃう♡」

♡ 女 ♡  
♡ ♡

あ♡

は、は、は、

ふふふ

ふ♡

ふふ

ふふふ

ふふ

ふふ♡

ふふ♡







「あゝあ

射精しちゃった…」

はあ

はあ

「約束守れませんでしたね…」

え……そんな……

え……嘘……

はあ

「レモンちゃん意地悪ならの」

はあ

ドロッ

ドロッ

「…これからお仕置きですよ♡覚悟してください♡」





は、は、

は、

「私のお尻締め悪くなっちゃって…  
ナツメさんに見てほしいんです♡♡」

は、は♡

は、は

「そっか…ふめんね」

「辛かったね」

「これからもめちゃうくちや  
に犯してやるからな」



「♡…♡…♡」





おは

ゴトッ









「アオイさんもおしりに何か入れてるんですね」

「ほっ♡」

「お、お願いがあるんですけど…  
い、イクときに「気に引き抜いてほしいんです…♡」

は、は、

は、

「どうしようかな〜」

「や、やっぱりいいです…  
ご主人サマにお願いだなんて…ごめんなさい」

「……」





「入れますよ...」

♡  
♡ あ ♡  
ドクン ♡  
♡ あ ♡  
♡  
ドクン ♡

74\_2♡



「ちよつと引っ張るだけで締め付け  
具合が変わって気持ちいい」

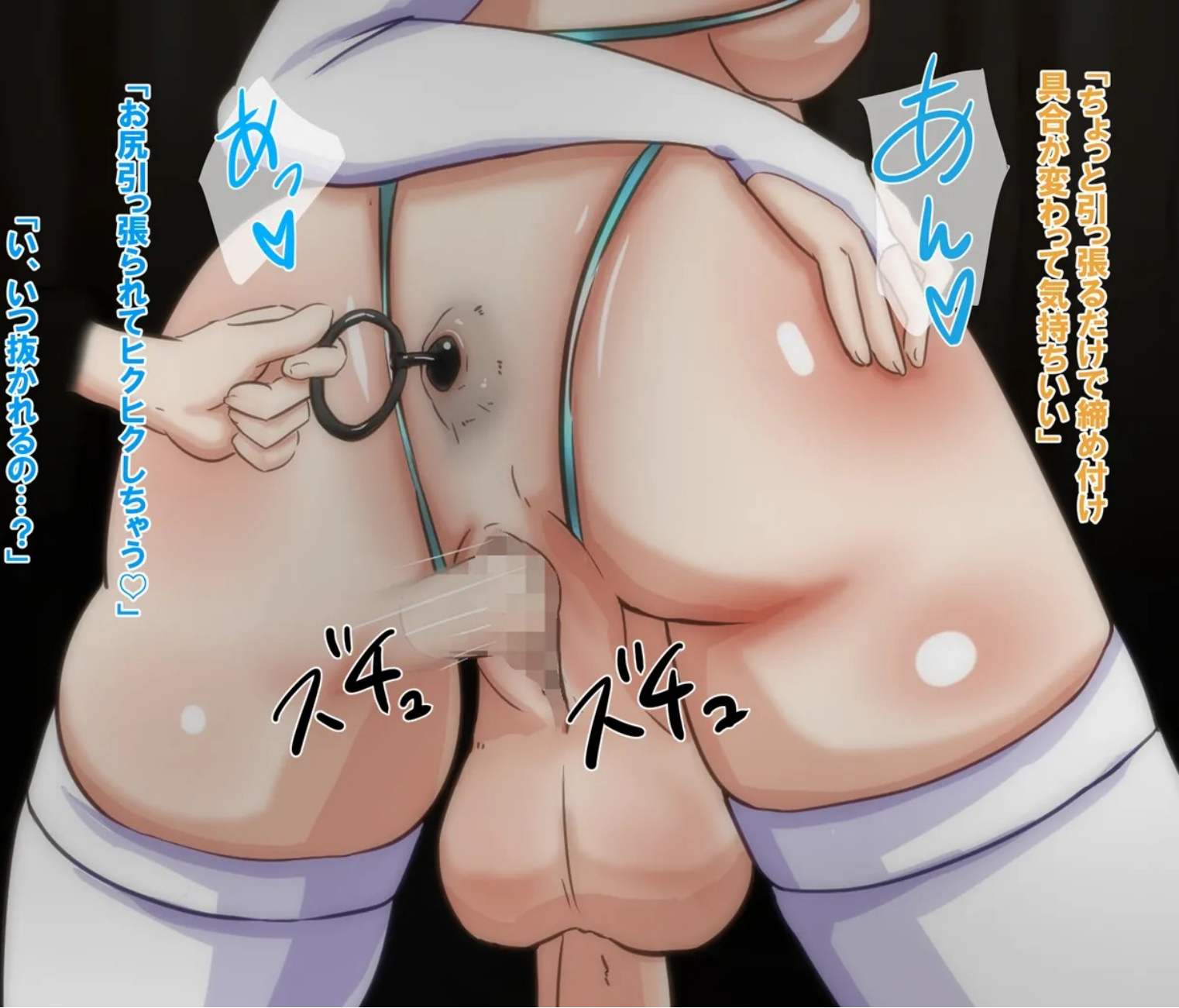
あ〜♡

あ〜♡

1"4<sub>2</sub> 1"4<sub>2</sub>

「お尻引っ張らされてピクピクしちゃっ♡♡」

「ぷんぷん抜かされるの…♡」





「アナルパール引き抜かれてイケ♡」

オオオオ  
又ホッ  
又ホッ

うわっ♡♡

又ホッ  
ホッ

うわっ♡♡

うわっ♡♡

うわっ♡♡

うわっ♡♡



ハイ♡  
ハイ♡

「夜は長いですよ♡」









